HILLOCK初等部



WILD & ACADEMIC

HILLOCK

https://www.hillock-school.com/

https://www.facebook.com/hillockshotobu

https://note.com/hillock_shotobu

世田谷区上用賀5-23-2（砧公園隣接）
hillock.shotobu@gmail.com

JUNE 2021 • VOLUME 2

目次　MENU

◆HILLOCKの理念 P3
◆HILLOCKの特徴
・人数・カリキュラム P3
・時間割 P4
・日本語軸バイリンガル P5
◆自由進度学習 P6
◆探究　テーマ学習 P7
・事例1 P8
・事例2 P9
◆探究　マイプロジェクト P11
・事例1 P11
・事例2 P12
◆どうしてもクラス P13
・事例1 P14
・事例2 P15
◆募集要項 P16
◆Q＆A
・スクールの位置づけ P17
・学校との関係、進路 P18
・シェルパ・協力者 P19
・保護者との関係、費用 P20
・応募、入学資格 P21
◆お問い合わせ P22

HILLOCK の理念

ヒロック宣言（草案）で「ヒロックはコゥ・ラーナー（子どもたち）それぞの福利を未来に向けて拡張し続けるための場」としています。
福利は「幸福と利益」、英語ではWell-Beingで、福祉の文脈では「本人が自由に選択できる環境や立場にあること」を意味します。
学ぶことが楽しい。昨日の自分より成長することが嬉しい。世界の広さや美しさがわかり、大好きなもの、素敵な仲間が増えていく。明日はもっと幸せになれる。明日に希望をもつ力。
子ども時代を楽しみぬく経験が未来を拓く力につながります。



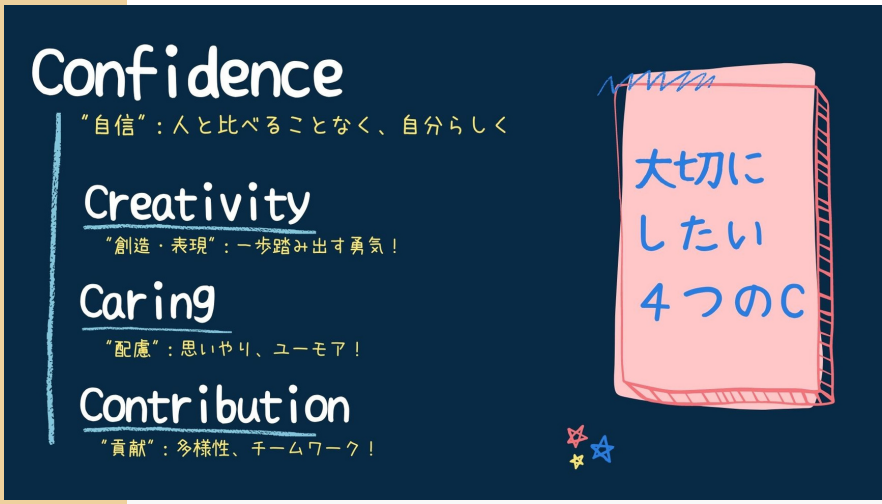


自然体験が少なくなってきた子どもたちの生育環境。人は自然の中でこそ育つ、と考えます。体ももちろん、心も。芯をもち、レジリエンスを発揮しながら、凛とした人に育って欲しいと願っています。
アカデミックも手放していません。学ぶ環境さえ整えれば、学習は最高の遊びだと考えます。自分の成長を楽しみ、果敢に挑戦していく。そんな「学び方を学ぶ」場を丁寧に築いていきます。
東京には、貴重な文化財や学習材が多くあります。頻繁に外に出て行くことで、社会や世界とつながり、自分自身を見つめ直せる力を育んでいきます。

HILLOCKでは、子どもたちの望まない競争は一切しません。常に比較され、評価されるような環境は大人だって嫌ですよね。比べるのは、昨日の自分。着実な成長実感が、自分らしくあるという自信につながります。

学校で学ぶ理由。それは、自分だけではたどり着けないセレンディピティに出会えることです。他者と出会い、協力し、時にはぶつかり、対話する中でこそ、配慮する気持ち、与え合う楽しみも生まれます。一人じゃできないことも、みんなとならできる。そんな実感を大切にします。

クリエイティビティ。独創性という大げさな話でなく、ちょっと作ってみる、表現してみる。そこに喜びや世界との接点があるはず。そんな一歩をともに歩みたい。





教科と探究のスパイラルで子どもたちの学びを支えます。

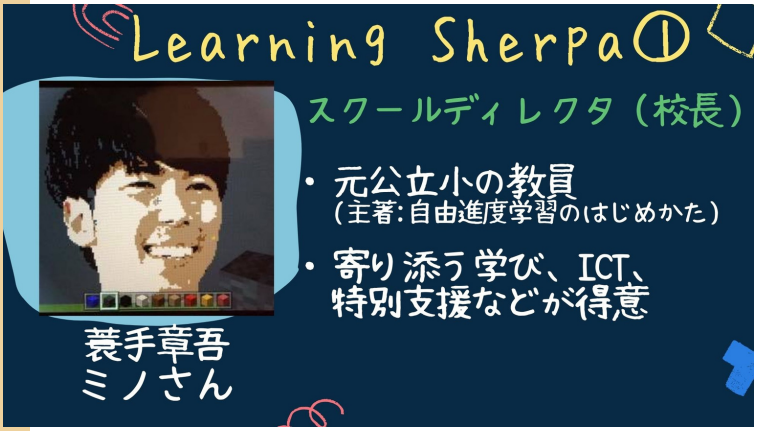
教科とは、公教育で行われているような学習内容です。自由進度を基軸に巨人（＝知の先人たち）の肩に乗ることで見られる景色や喜びを味わっていくのです。

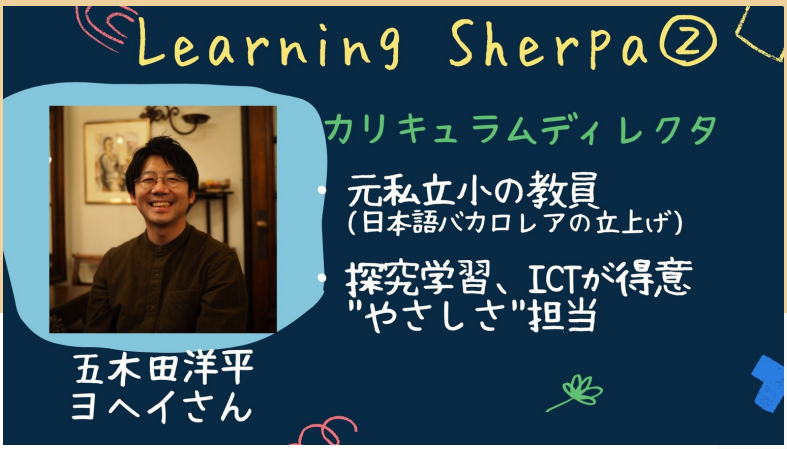
探究とは、子どもたちの「やりたい！」という好奇心を出発点に「学ぶプロセスを学ぶ」学習です。自分で選び、問いをもち、アウトプットにつなげていく。

HILLOCKの特徴

ヒロックでは、子供に寄りそう観点から「先生」とは呼ばず、ヒマラヤ登山ガイドのシェルパにちなんで「ラーニング・シェルパ」と呼びます。

安定した職をなげうち、理想の教育を目指してヒロックに参加した熱い心を持つプロフェッショナル達が務めます。





「生徒・シェルパ比率＝12：1」以下（公立小の3倍以上の手厚さ）だからこそ可能な一人ひとりに応じた育ち・学びのコーディネイトをいたします。

運営チームは、それぞれが国際ビジネスやコンサルティングなどを経て起業した幅広い社会経験を持つメンバーです。多様な角度から持続的にこれからの教育を求めつづけるチームです。



ラーニング・シェルパ

時間割・年間スケジュール



【HILLOCK低学年時間割（案）】

基礎（自由進度）　広義SEL（探究）　プロジェクト　自由系

時間配分の考え方：基礎学習50%（半分は自由進度学習）、応用学習50%（「創ることで学ぶ」探究系、英語、自由等）

	月	火	水	木	金
9:00	サークルタイム	サークルタイム	サークルタイム	サークルタイム	サークルタイム
	数と論理　15分	数と論理　15分	数と論理　15分	数と論理　15分	自由 （含む 学外学習）
	言葉　15分	言葉　15分	言葉　15分	言葉　15分	
10:00	英語　15分	英語　15分	英語　15分	英語　15分	
	英語（Literacy）*1 40分	数と論理 Class 40分	英語 (STEAM) Class 40分	言葉 Class 40分	
11:00	体育 Class 40分	自由 40分	自由 40分	自由 40分	
	ランチタイム 40分	ランチタイム 40分	ランチタイム 40分	ランチタイム 40分	ランチタイム 40分
12:00	掃除　10分	掃除　10分	掃除　10分	掃除　10分	掃除　10分
	ICT　30分	アート（描・造・書）	クラス会議・SEL	表現（音・踊・劇）	マイ プロジェクト
13:00	自由 20分	自由　20分	自由　20分	自由　20分	
	テーマ学習 40分	テーマ学習 40分	シェルパ「どうしても」クラス*2	テーマ学習 40分	
14:00					
14:30終	サークルタイム	サークルタイム	サークルタイム	サークルタイム	サークルタイム

*1 外国人シェルパ実施（授業＋自由時間）　*2 子ども哲学、システム思考、社会起業家、etc

時間割は目安で季節や探究の内容、子どもたちの実態から総合して判断していきます。

公教育の内容を5割程度の時間で行い、残りの5割の時間は、探究や英語、先進的な学びといった応用・発展的な学びに取り組みます。基礎学習は自由進度学習を軸に「目標→実施→振返り」をすることで、自己調整力をつけていきます。

自由の時間を意識的に確保しているのもユニークで、隣接する砧公園でゆったり過ごしたり、博物館などの施設に出かけたりします。自由を与え合い、創り出しながら、デモクラティックな態度、シティズンシップ、豊かな発想が育まれる環境を意識しています。

【HILLOCK　年間スケジュール（予定）】

4月　新学期スタート
5月　東京散歩
7月　マイプロジェクト・プレゼンテーション
8月　夏休み
9月　テーマ学習フィールドワーク
10月　ハロウィンパーティ
11月　オータムキャンプ
12月　マイプロジェクト・プレゼンテーション 、冬休み
1月　ニューイヤーパーティ
2月　テーマ学習フィールドワーク
3月　マイプロジェクト・プレゼンテーション、春休み

自由進度学習



公立学校では「小2の10月にかけ算を習う」「小6の9月で円の面積を習う」と決まっています。しかし、これってよくよく考えると不自然な気がしませんか？　学年には4月生まれもいれば、3月生まれもいるでしょう。ほとんど丸1年も年齢差のある子どもたちが、同じ時期に同じものを習得しなければいけないのです。さらには、発達は個人差があるものです。まだ認知の準備ができていない子も習得しなければいけないし、反対に準備ができた子でも先に進むことは許されません。

学びは本来、本のしおりのようにあるべきだと考えています。本は、自分の読む準備が整ったときに開き、分からなくなったら途中でペースを緩め、時には一度読んだところを振り返りたくなるものです。ちょっと休んで、また先に読み進める準備が整うまで、しおりは中断したところで待っていてくれるんですよね。認知の発達に学びが合わせる、それこそ本質だと思うのです。そして、それを同じ教室空間で実質化するのが自由進度学習です。

子どもたちはそれぞれ、自分の学習するものと目標を立てます。全力を出してぎりぎり達成できないような、点数で言うと8割になるくらいの難易度の問題を選んで取り組みます。一人でやる子もいれば、友達と教え合う子、動画で確認する子ー。自分が選んだ方法で、試行錯誤しながら取り組みます。シェルパは何周も回りながら、助言していきます。そして最後に振り返り。

教科内容とともに、非認知能力や自己調整力も養っていきます。

英語とその先にある世界へ羽ばたく

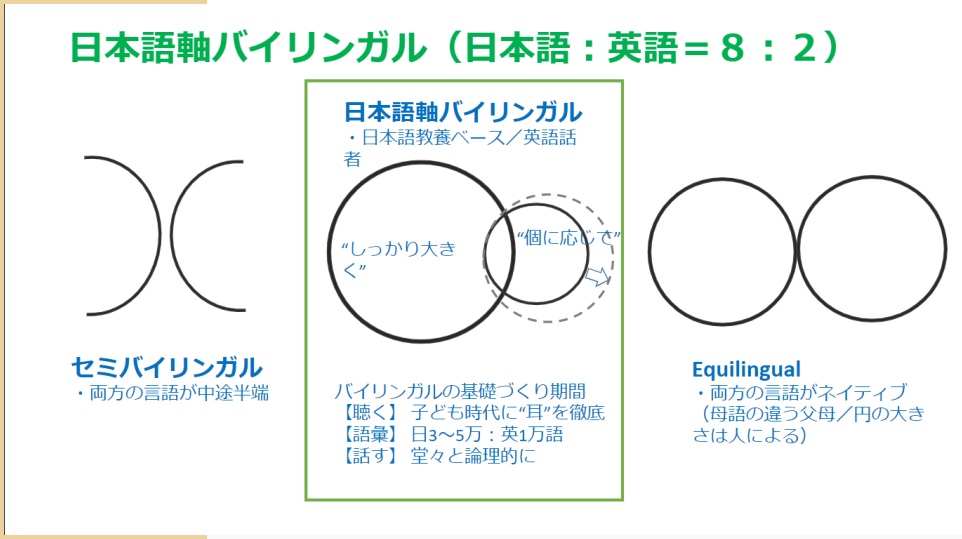
将来自分の世界を広げられるよう子どものころから英語にふれてほしいと思っています。第二外国語レベルは母国語での幅広い知識と深い思考力にも大きく左右されますので、まずは日本語をしっかりと。

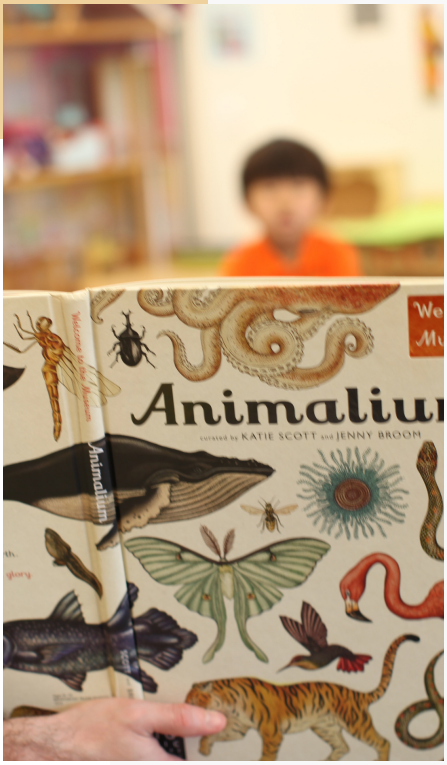
バイリンガルになることはそれほど容易なことではなく、20歳に花が開くことを目指して気長に取り組みましょう。適切な方法で地道に練習をすること、なによりコミュニケーションを楽しむことが大切です。

・たくさん聴く（聴けない音は理解できない）
・正しい発音をする（発音できない音は聞き取れない）
・流暢に読む（読む速度以上の速さでは聞けない）
・語彙を習得する（知らない単語はわからない）

こまめに英語に触れる時間を確保しています。本人希望や保護者の考えに応じご家庭での取り組みを追加されると一層効果的です。

言葉だけでなく、堂々とふるまう、相手を尊重する、論理的に伝えることも大切で、これらは他のクラスでも意識して取り組んでいきます。







日本語軸バイリンガル

テーマ学習





テーマ学習は何か1つの教科に寄った学習ではありません。例えば、ドローンやVRなどの科学技術を扱ったり、世界の街について学んだり、環境問題について考える活動や物語や劇を創作する活動などが挙げられます。1つのテーマを様々な視点や教科を横断したながら深めていくのがテーマ学習です。HILLOCKでは一つのテーマに2か月ほど時間をかけ、じっくり、深く扱っていきます。

教科ではなくテーマを扱うことで、現実社会とのつながりを学びの中で実感したり、興味関心が生まれたりします。そのような学びを繰り返すことで、学びの意義や意味を理解しながら主体的に学ぶことができるでしょう。

また、1つのテーマを学ぶ中でCo-learner自身が協力しながら様々なものを見たり、実験したり、調べたりします。そうして自分で獲得した知識を再構築し、プレゼンテーションを行ったり、劇や絵、動画などを制作して表現します。チームで学ぶ事が多く、社会性やコミュニケーション能力が育まれるほか、プレゼンテーション能力や表現力、クリエイティビティが育まれます。

教科を分ける学習は専門性を高めると言う意味では合理的なところもありますが、学んだ物事同士をつながって理解したり、実社会との関連を理解しないと「好きなこと・専門でやったことしか知らない」という状態になってしまいます。テーマを軸に様々な視点や教科を横断しながら学ぶことでより深い学びも実現できると考えています。

低学年のテーマ学習の例として建物を探究するプログラムがあります。建物の探究ではCo-learner達はブロックを用いて自分の理想の家をイメージしながらつくることから活動がスタートします。そのようにして建物の探究に対しての動機付けを図ったり、学習のきっかけを作ります。Co-learnerたちは自分の想いを表現することが大好きです。

そのような活動を十分にとった後、シェルパは探究を深める材料として、様々なリソースを用意します。雪国の家の屋根、沖縄の家の屋根の赤い瓦、海外のユニークな建物やレンガ造りの家を紹介するなど、様々な資料を用いて学習を進めます。Co-learnerたちは資料を活用して、問いを立てたり、本やICTを駆使して調べたり、議論したり、考えたりする中でその地域の天候や季節と建造物の形に関係があることを理解します。日本で言えば、雪国の合掌造りや沖縄の沖縄赤瓦が有名です。ヨーロッパにレンガ造りが多いのは歴史的にレンガや石をモルタルで固め、城壁にする文化が家造りに応用された結果なのではないかという説に行き着きついたり、日本に比べて地震が少ない地域であるからこそレンガ造りの家が可能だということを知ることができるでしょう。活動の中で大工さんにインタビューをするなど外部との接点を持つこともあります。

建物の成り立ちを歴史、地理、科学の観点から探究することで、Co-learnerたちはもう一度様々な条件を意識しながら、建物の模型を創作しました。創り、表現する、つまりアウトプットすることで学ぶ活動も多く取り入れていきます。





テーマ学習/事例
「世界の建物の探究」

マイプロジェクト

マイプロジェクトは自分で選ぶことから始まります。自分が興味をもって、自分で選んだ内容をとことん深く、探究していくイメージです。教科の学びでは他の人と同じものを学ぶことも大切です。しかし、それは学びの一側面でしかありません。自分の興味や適性に応じて自分で学ぶものや、学び方を決めていくという考え方、習慣が生涯学習者には求められるからです。

自分で選んだ学びですから何よりやる気が出ます。科学者のように深く学ぶことで、例えば「社会の中で実際にどのように活かされているか」など通常の授業では扱わないレベルの知識や考えまで思考をめぐらせることができます。

自分が探究したことを発表する機会もあります。プレゼンテーションの資料を友達と協力して作ったり、友達にプレゼンテーションをしてたりする中で自分の考えを表現する力が育まれます。

他の人の発表を聞くことで様々なことに興味を持ったり、他者を理解しリスペクトするきっかけを持つこともできるでしょう。
教科の学びと広いテーマ学習、そして深いマイプロジェクトが関連し、相互作用し合う中で学びは加速・進化・深化していきます。



これはイメージをお伝えするための仮説的なストーリーです。いわば未来日記。

Ａ君は生き物が大好き。テーマ学習で世界の絶滅危惧種を知ってから、生き物を取り巻く環境や生態に強く興味を持ちました。読書の面白さにハマっているＡ君は、本を読むことも大好きです。

生き物と本、どちらをマイプロジェクトにしようかとはじめは悩んだのですが、絶滅危惧種をテーマに扱った物語を作ろうと閃きました。

ストーリーを紡いだり、どのような流れで絶滅の危機に瀕してしまっているのかを調べたりして、いろいろな学びを統合して自分の作品に落とし込んでいきました。絵が得意な友達に挿絵を書いてもらったり、本好きの友達と物語の結末を一緒に考えたりもしました。マイプロジェクトは自分で選んだテーマを追求しますが、友達とコラボレートしながらプロジェクトを進めることもできます。

そのようにしてできたこの物語を装飾して1冊の本にしました。装飾技術は出版社の方にインタビューをしながら考えたものです。その本を様々な人に読んでもらい、感想やフィードバックをもらいました。自分の作った物語が誰かに届くことをすごくこの子は誇らしく思いました。同時に、もっともっと人に伝わる物語を書きたいと思い、次の年も本づくりの探究をしようと考えています。



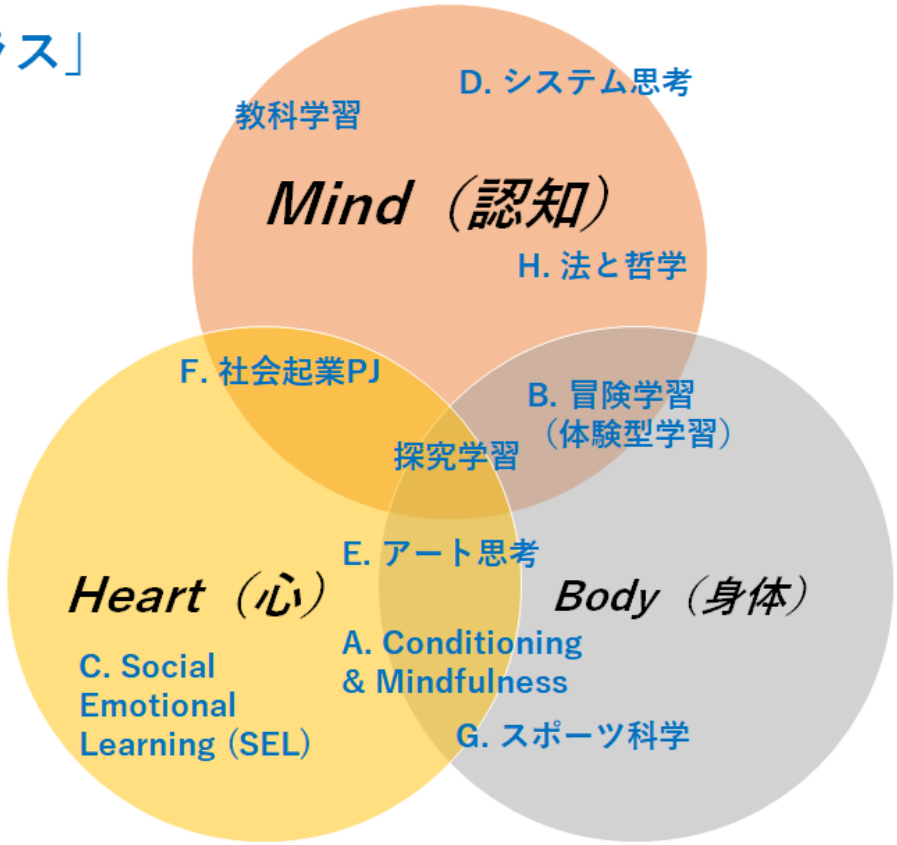
マイプロジェクト/事例
「物語づくり」

どうしてもクラス

シェルパの「どうしてもクラス」

・どうしてもクラスとは？：
日本の教育現場での取り組みは十分と言えない先進の学びのうち、シェルパから見て「どうしても体験してほしい学び」を厳選して、取り組み（定期または単発）

・発達心理学における「頭、体、心」への総合的な働きかけで、バランス良い成長をサポートする



HILLOCKでは「どうしても制度」を採用しています。大人も子どもも、多数決や常識や慣例で、自分の「どうしても他のことをやりたい」「どうしてもやりたくない」という意見を潰されないという制度です。

自分の意見がマイノリティだとしても、ちゃんと社会に受け取ってもらえるという実感を大切にしたい。強い思いは、しっかり主張してほしい。そんな思いをこめた制度です。自分の「どうしても」を最大限尊重してもらった経験は、誰かの「どうしても」を尊重する態度につながります。

大人にも「どうしても」はあります。この時間は、シェルパが「どうしても」体験してほしいと思っている授業です。日本ではあまり実践されていない学びや、子どもたちにとって必ず有益になるだろうと厳選した学びです。

スクールにおける大人の役割は、子どもたちに多様な扉を見せてあげることだと思っています。本人の「やりたい」を尊重するばかりでなく、「こんな世界もあるよ」と提示することで、もしかすると子どもが自分で思いつかなかったような、セレンディピティな出会いがあるかもしれません。

多くのゲストティーチャーを招きながら、社会や世界とリンクするような学びを楽しんでいきます。

どうしてもクラス/事例
ゲスト・シェルパと共に

　どうしてもクラスは、高い専門性を要求される場合もあり、原則としてはゲスト・シェルパを招へいしていく予定です。

冒険教育 or 旅する学び

キャンプはぜひ経験してほしいですが、加えてプロジェクト・アドベンチャーのような協働活動もしたいと思います。また、日本の地方や世界に旅をして学ぶにもあこがれます。専門家に相談して、安全面に留意しながら取り組みたいと考えています。

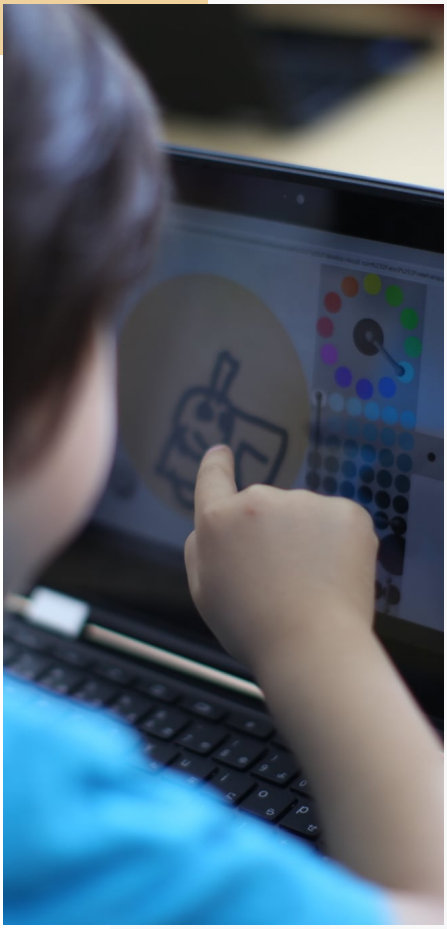
社会起業

自信を構成する大きな要素に「自己効力感（自分ならやれる）」「自己効用感（人の役に立てる）」があります。社会起業の考え方は、自分らしく人の役に立てる方法を追究するのにぴったりです。MITなどでの社会起業プロセス方法を子ども向けに協働開発する動きを始めています。

アート鑑賞・アート対話

学びにおける効果が高い領域として世界的に注目されているのが、アート鑑賞・アート対話です。答えのないアートとどう向き合うかは、感情や思考の育ちに重要な経験となることでしょう。







募集要項



【2022年4月生の募集要項】
対象：低学年混合で12名　※注：定員にはHILLOCK幼児園卒業生の優先入学を含みます
出願：・出願：第一次出願締切り9月3日（金）（二次募集する場合あり）
・選考（面接・グループワーク）：出願後順次実施します。
・結果：選考後順次ご連絡（9月末最終）
～入学金納入（10月1日迄）いただくことでお席確定となります。
費用：税込み11,000円 (願書提出時にご納入下さい)
選考方法：男女比などの全体バランスを踏まえつつ、下記条件にそって選考いたします
・ご家庭とヒロックの教育方針に大きな相違がないこと
・子どもの意志
・子どものコミュニケーションや安全面で特別対応を必要としないこと
（面接はオンライン、グループワークは実地。模擬クラス参加でグループワーク代替可能）
応募方法：オンライン申込のみ（こちらをクリック）～募集詳細と入会規約の最後に出願フォームがありますので、そちらからお申込み下さい

【学費（税別）】
入学金 200,000円(入学時のみ)～兄弟姉妹二人目以降50%
授業料(年額) 960,000円～授業料は兄弟姉妹の割引はございません
教材施設費（年額）120,000円（初年度はクラウドファンディング支援により無料となります）
その他費用（実費）
個別教材費：自由進度学習のドリルなど教材の実費をお願いする場合があります
校外学習費：遠足、キャンプなど学外学習は実費精算をお願い致します（含む引率者実費）
車両等設備維持充費(年額) 120,000円～長距離送迎利用者のみ
【寄付金】一口100,000円（スクールの持続的運営のため、ご賛同くださっている保護者の皆さまに寄付をお願いしております）

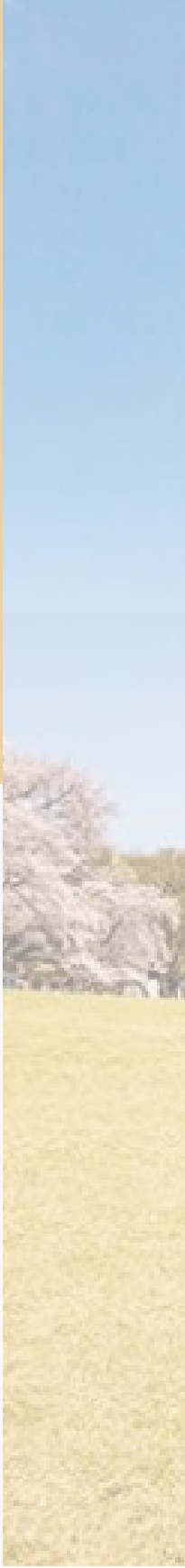
Q. ヒロック初等部はこれまでにどんな活動をしてきたので すか？
A. ヒロックに関連する出来事（キッズアイランドを含む）

2006年　堺谷(*1)が自然と人にふれあうプリスクール「キッズアイランド」設立
　　駒沢校（世田谷区駒沢公園に隣接）
2011年　キッズアイランド砧公園校設立（世田谷区砧公園に隣接）
2016年　キッズアイランド目黒校設立（目黒区林試の森公園に隣接）
2018年　蓑手(*2)、五木田(*3)、堺谷が出会い、後にLCLで共同プロジェクト実施
2019年　NPO法人ソダチバ・プロジェクト発足（ヒロック運営母体）
　　HILLOCK Bilingual Kinder School Meguro設立（キッズアイランドに併設）
2020年　HILLOCK Bilingual Kinder School Meguro設立（キッズアイランドに併設）
　　初等部を設立し、学びの選択肢・可能性を広げる構想で意気投合
2021年　ヒロック初等部準備室設置（蓑手、五木田は教職を辞して参加）
　　蓑手「自由進度学習のはじめかた」出版（学陽書房）
　　五木田はICT教育に関する単著を秋に出版予定
2022年　ヒロック初等部開校
　　蓑手はICT教育に関する単著を2月に出版予定

*1 堺谷武志（スクールプロデューサー）
大阪出身、京都大学工学部卒、南カリフォルニア大学経営学修士、保育士
元三菱UFJ銀（シンガポール駐在、アジア戦略）を経て、教育分野で起業

*2 蓑手章吾（スクールディレクタ：校長）
公立小・特別支援学校で教員14年。人間発達科学で修士。ICT CONNECT21主宰のハッカソンでグランプリ。自由進度学習、ICT活用など子ども主体の学びを推進。

*3 五木田洋平（カリキュラムディレクタ）
私立小学校で教員10年。社会学と教育学のダブル専攻。埼玉大学特別授業の講師、シンガポール日本人学校の研修担当を勤める。日本語版IB立上げに関わり、「ICT×探究」の分野では日本で有数の実践家。



Q&A

Q&A

学校の位置付・進路



Q．ヒロック初等部は文部科学省認可の学校ですか？
Ａ．ヒロック初等部は文部科学省認可の学校（いわゆる一条校）ではありません。フリースクール、また はオルタナティブスクールの位置づけです。

Q．小学校の卒業資格はどうなりますか？
Ａ．公立小学校に籍を置きながら通っていただくことが望ましいと考えています（類似校の例では籍を置かない方もいるようです）。学校や教育委員会によって方針は異なるとのことで、ご心配な点がございましたらご相談下さい。

Q．卒業後の進路はどのような形になりますか？
Ａ．私立中学、公立中学、インターナショナルなど子どもと保護者の希望によって選択していただく形になります（ヒロックで受験対策をすることはありませんが、自由進度学習の時間をやりたい学びに充当することは可能で、サポートもいたします）。進路を決める際にはぜひ「自分らしさを大切に、自分で決めてほしい」と考えています。

Q．ヒロック初等部は特定の思想に基づくスクールですか？
Ａ．ヒロックは特定の宗教・思想・メソッドに基づくスクールではありません。スクールで大切にしたいこと（福利、自由、公正、民主、ケアなど）は「ヒロック宣言 (HILLOCK Constitution)」として共有していく予定です。ヒロック宣言は教育哲学研究家をファシリテータとして教育関係有識者との共同プロジェクトを経て草案が作成されました。開校後に審議・承認プロセスを経て正式に採用される見込みです。

Q&A
カリキュラム



Q．どのようにしてカリキュラムを作っていますか？
Ａ．①有識者共同プロジェクトによるフレームワーク作成、②内外の先進的な事例の調査分析、③シェルパ（元教員）の経験に基づく実践知、をベースにヒロック独自のものを開発しています。外部への発表、専門家との提携・支援を得て継続的にアップデートしていく仕組みを取り入れます。

Q．基礎学力への対応はどうなっていますか？
Ａ．公教育で取り組む知識・概念のコア部分を学習科学も活用しながらカバーしていきます。テーマ学習では、社会や身近なテーマに即しながら、理科・社会・算数・国語・アートなどの教科を横断的に学んでいきます。

Q．日本語軸バイリンガルとはどのようなものですか？
Ａ．日本語での教養（幅広い語彙と深い思考力）をベースにして、世界を広げていくための英語を身につけてほしいと思っています。毎日の自学と授業から構成されていて「細く・長く・楽しく」ふれていくことを重視しています。勉強ではなく「使うもの」として、日本語での教科学習でも英語動画などを活用して情報収集するなど、気軽に使っていくことを進めていきます。

Q．ICT活用はどのようにする予定ですか？
Ａ．シェルパの蓑手と五木田は積極的にICTを活用し、その有効性や勘所、留意点などを把握しています（教員向けセミナー多数、単著実績あり）
コンピュータは学びに必要であれば、積極的に活用していきます。一方で、リアルな関係性や具体物、体験、手触り感も同じくらい大切にします。ICTはあくまで補助的（アシスティブ）なもの、学びを拡張させるものという位置づけで、それがどのような学び・成長につながるかという本質を外さないことが肝心だと考えています。

Q&A
評価・選考



Q．ラーニング・シェルパとはどういう意味ですか？
Ａ．ヒロックでは「先生＝教える、生徒＝教わる」の関係を越えて「ラーニング・シェルパ」と呼びます。シェルパとはヒマラヤの山岳ガイドで、私たちもプロのガイドとして共に登り、支援し、世界の景色を紹介します。生徒たちはCo-learner（共に学ぶもの）と呼びます。

Q．スクールに関して保護者はどんな役割をしますか？
Ａ．スクールへのご提案、スクールをサポートする自主的な活動などは大歓迎です。PTAなど組織だったものや参加義務はありませんので、無理のない範囲でお力をお貸しください。

Q．成績や評価はどうなりますか？
Ａ．子どもの育ち・学びをサポートする観点を最優先にしつつ、保護者には、シェルパが感じた成長や強みなどをフィードバックしたり、発表・イベントや保護者面談などの機会で成長を感じていただければと考えています。

Q．少人数制で社会性は身に付きますか？
Ａ．ヒロックでは、社会性や友だち関係について より深く温かい交流が可能です。異年齢のコミュニティーで「年上に憧れたり、年下に配慮したり」などの経験の幅も広がります。フットワークの軽さを活かし、スクール外で同年齢から大人まで幅広くコミュニケーションできるのも利点です。少人数だからこそ可能な「より多様な人とより深くふれあう経験」を通して、社会性を磨いていければと考えています。

Q．授業料は他の学校と比べて高いですか？
Ａ．無料の公立学校に比べると当然高くなります。補助金がないため、私立学校と比較しても高くなりますが、少人数制である ことを考慮すれば高くはないと思います。

Q．この学費でスクールの経営は大丈夫なのでしょうか？
Ａ．無駄な経費を省いたスリムな経営を行う事に加え、有料での研修・セミナー実施により、長期的に安定した運営体制を整えていきます。

Q&A
評価・選考



Q． 入学選考はどのようになっていますか？
Ａ．選考基準をもとにご応募者の中から、面接やグループワークなどを通して総合判断いたします。

Q．英語初心者ですが大丈夫ですか？
A．大丈夫です。レベル別

Q．学童保育はありますか？
A. 学童保育はありません。必要な方は別途、ご自宅近くなどで手配をいただくことになります。

Q．障害児を受け入れますか？
Ａ．障害のあるなしではなく、上記選考基準やワークなどを経て総合判断をして選考をいたします。ただし、とくに専門家が常駐しているわけではおりません。

Q．外国人や帰国子女は入学できますか？
Ａ．入学できます。クラスの8割程度は日本語で行われますが、自由学習や英語クラスを経て一定の英語にふれることは可能です。

Q．スクールバスのルートを教えてください。
Ａ．現時点では一本の予定です（東急目黒線不動前駅ー駒沢経由ーヒロック初等部）

Q．給食はありますか？
A．ランチはご持参ください。こったお弁当を作っていただく必要はなく、仕出し弁当等を届けていただいても大丈夫です。

お問い合わせ



WILD
&
ACADEMIC



〒158－0098　世田谷区上用賀5-23-2 ２階
「不動前-駒沢公園」経由ルートで送迎あり
hillock.shotobu@gmail.com

JUNE 2021 • VOLUME 1

ヒロック宣言（草案）
(HILLOCK CONSTITUTION)

1. （場の定義）HILLOCKはコゥ・ラーナーそれぞれの福利を未来に向けて拡張し続けるための場である。
2. （個の定義）シェルパ、コゥ・ラーナーはそれぞれかけがえのない個人として対等であり、公正に扱われる。
3. （関わりの定義①）シェルパ、コゥ・ラーナーは１・２を実現するためにそれぞれ自由を与え合い、高めあい、ともにつくりあう。
4. （関わりの定義②）シェルパ、コゥ・ラーナーは１・２を実現するためにそれぞれケアし合い、少数の声なき声を大切にし、居心地の良い関わりをともにつくりあう。
5. （民主的学びの定義）シェルパ、コゥ・ラーナーは立場や人数、前例や常識のみにとらわれず、民主的な意思決定と判断、表現をする権利を持ち、そのために必要な物事を学ぶ権利をもつ。
6. （自己調整の定義）シェルパ、コゥ・ラーナーは自身についての理解を深めつつ、学習の方法と内容を試行錯誤し、挑戦する権利をもつ。
7. （参加と選択の定義）シェルパ、コゥ・ラーナーは自身についての理解をもとに、活動への参加の有無や程度を自ら調整し、選択する権利をもつ。
8. （調整と対話の定義）シェルパはコゥ・ラーナーの心身の保護と成長のために必要なことを調整することがある。コゥ・ラーナーはその調整に対して説明を求める権利、話し合う権利をもつ。
9. （担い手の定義）１～８の定義に立ち返りながら、学校文化を具体化していく担い手はHILLOCKで暮らす私たちであり、私たちがこの定義そのものを刷新していく担い手でもある。